

病害虫防除技術情報第 2 号

平成 26 年 5 月 1 日
三重県病害虫防除所

現在開花期の麦類圃場では、早急に赤かび病防除を行ってください

1. 対象作物： 麦類

2. 対象病害虫名： コムギ赤かび病・オオムギ赤かび病

3. 生育および天候の状況

(1) 本病は開花盛期から 10 日後頃までが最も感染しやすく、この時期に高温多湿の天候が続くと多発する傾向があります。

(2) 伊勢平坦地域では、多くの圃場において開花期を迎えています。松阪市の作況試験田(11 月 16 日播種)では、コムギ(品種 あやひかり、さとのそら、ニシノカオリ)は 4 月 22~23 日、オオムギ(品種 ファイバースノウ)は 4 月 19 日に開花期となりました。

(3) 伊賀市の現地調査圃場(11 月 13 日播種・品種 タマイズミ)では、4 月 30 日現在、穂揃い期であり、これから開花期となります。

(4) 津アメダスデータによると、4 月 28 日から 30 日にかけて、胞子の飛散に好適な気象条件で推移したため、この時期に開花期にあった圃場では感染の機会があったと考えられます。また、1 か月予報(4 月 24 日・名古屋地方気象台発表)によると、天気は数日の周期で変わる予想です。



4. 防除上の注意事項

(1) 防除適期は開花始めから開花盛期です。現在開花期にある圃場では早急に薬剤防除を行ってください。

(2) 開花前の薬剤防除は防除効果が劣ります。これから開花期となる圃場では開花状況を確認してから薬剤防除を行ってください。

(3) 薬剤防除以降も高温多湿が続く場合は、追加防除が必要です。追加防除は薬剤防除の 7~10 日後が防除適期です。

(4) 特に、倒伏した圃場では、発病を助長するおそれがあるため、注意が必要です。

(5) 薬剤防除にあたっては、麦種によって使用時期や使用回数が異なることがあるため、隣接圃場への薬剤の飛散を考慮して選定してください。また追加防除を行う際は、耐性菌の発生のおそれがあるため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用を避けてください。

(6) 収穫前に赤かび病の発生状況を圃場ごとに把握し、多発により赤かび粒の混入するおそれがある圃場では、健全な圃場と仕分けして収穫および乾燥を行ってください。

(7) 収穫後に粒厚選別および比重選別を併用することで、赤かび粒の混入を防止してください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。